

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520709

研究課題名(和文) 20世紀前半、福建省における対外交流と社会・文化変容に関する研究

研究課題名(英文) A study of Cultural Exchanges with Foreign Countries by the Private Sector at Fujian Province China in the Early Twentieth Century.

研究代表者

山本 真(YAMAMOTO, Shin)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：20316681

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、20世紀前半、海外移民やキリスト教の普及により民衆レベルでの対外交流が進展した福建沿海部を主な考察対象とし、海外との繋がりに起因する社会・文化変容を、民衆が生きた「場」である地域の視角から探求した。

研究遂行に際しては、中国福建省の福州付近の華僑の送り出し県である古田県やホ田県、さらに移民先のマレーシアサラワク州シブ市、ペラ州シティアワンに赴き現地調査を実施した。さらにアメリカ合衆国のエール大学神学院図書館、カリフォルニアのフレズノパシフィック大学の図書館において福建省で活動したキリスト教宣教師の文書を閲覧した。

研究成果の概要(英文)：In this research, Focusing on the costal area of Fujian province in the early twentieth century where cultural exchanges with foreign countries by the private sector were well developed, I have studied social or cultural changes which were originated by Emigration to South East Asia or acceptance of Christianity.

In order to accomplish this study, I carried out field works at Gutian county and Putian county in Fujian province China where many emigrants occurred. Furthermore I also visited to Sarawak on east Malaysia and conducted interviews with elderly Chinese people.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、東洋史

キーワード：福建省 地域社会 華僑・華人 僑郷 サラワク キリスト教 マレーシア 中国近代史

1. 研究開始当初の背景

近年、中国近現代史研究においては、人々が生きた「場」である地域社会に着目することにより、民衆の視点から近現代史像を再構築する試みが進められている。こうした社会史的研究は、档案（公文書）の閲覧に加え、現地調査により収集される地方性資料（郷鎮志や族譜など）や聞き取りによる口述資料を開拓することにより初めて可能となるものである。

筆者も科学研究費（若手研究（B））「1930～40年代、中国福建省における国家権力の浸透と社会構造に関する研究」（平成19～21年度）においては、上記の問題関心と方法により、宗族（父系同族）による結合が比較的強固である福建省南西部の龍巖地区を舞台として、地域の社会構造が革命や国家建設の進展をいかに規定したのか、また革命により社会構造がどのように変容したのかを具体的に検討し、幾つかの研究業績を発表した。

こうした考察を進めるなかで、20世紀前半の福建省において、華僑送金やキリスト教会により設立された新式学校において、革命を担った青年知識人が教育されたことや、海外への移民が地域の人口圧力を軽減するとともに、彼らからの送金が地域経済に大きく寄与したことの重要性を改めて認識することとなった。すなわち近現代福建における政治・経済変動の背景には地域レベルでの海外との直接交流が存在した。それゆえ近現代福建における政治・経済、社会・文化変容を総合的に理解するためには、開港後、地域社会が海外と直接繋がったという福建固有の歴史的背景に深く切り込む必要があると考えに至った。

具体的には、本研究では福建沿海部の福州地区や莆田市など、そして東マレーシアのサラワクを考察対象とすることとした。これら地域を取り上げるのは以下の理由による。すなわち、20世紀初頭にキリスト教の布教活動

による文化摩擦がサラワクへの移民の誘引となった。その後は血縁・地縁を頼りに非キリスト教徒の移民も増加していったが、これにより人的・物的・文化的交流が促進され、社会・文化変容が進展した。またキリスト教布教による文化摩擦が移民を誘発したため、当時の社会・文化状況を考察するに際して、資料として現存する教会関係文書を豊富に利用することが可能となると考えた。

2. 研究の目的

本研究では、20世紀前半、海外移民やキリスト教の普及により民衆レベルでの対外交流が進展した福建沿海部を主な考察対象とし、海外との繋がりに起因する社会・文化変容を、民衆が生きた「場」である地域の視角から探求した。近現代福建を考察するに際しては地域が直接海外と繋がったという歴史的条件の分析が鍵だからである。福建の僑郷（華僑の故郷）、そして移民先である東マレーシアのサラワク州において地方性文献の収集と聞き取り調査を行う。また社会経済史を専門とする研究代表山本と宗教史を専門とする分担者丸山が協力することにより、多様な視角からの検討を行う。以上の視座と方法により、エリートや知識人の視点のみからの歴史叙述を乗り越え、人口の大部分を占めた民衆にとっての中国近現代史像、東南アジアの華僑史を構築することを目的とする。

3. 研究の方法

近現代の社会経済史を専門とする研究代表者山本と宗教史・文化史を専門とする研究分担者丸山が協力して、多様な視角から研究を進めた。

研究代表者である山本は、文献資料の収集と現地調査による聞き取りとを組み合わせることにより、福建地域社会（華僑の故郷＝僑郷）の社会・経済構造、さらに華僑と故郷との紐帯に関する研究を行った。その方法は、

福建省福州、閩清県・莆田県、さらにマレーシアのサラワク州シブ、ペラ州シティアワン、シンガポールでの現地調査であった。加えてアメリカのイエール大学ではキリスト教文献の閲覧を行った。研究分担者であり宗教史・文化史を専門とする丸山は、民俗宗教に関わる側面から、近代福建における伝統文化と民衆意識とについて研究を進め山本を補助した。また福建とサラワクでの現地調査を潤滑に進めるために、福建師範大学関係者とサラワク華族文化協会の研究者を、それぞれ筑波大学に招聘し、研究交流と事前準備とを入念に行った。

4. 研究成果

各年度の具体的な研究内容は次のとおりである。

2010年度

山本は2010年8月に中国福建省福州市に位置し、プロテスタント系ミッションが合同で設立した福建協和大学を起源とする福建師範大学を訪問し、歴史系の資料室に保管されているキリスト教関係資料を閲覧した。さらに教会関係者による働きかけを背景とし集団でマレーシアへの移民が行われた古田県と閩清県に赴き聞き取り調査を行った。これにより移民やキリスト教伝道が盛んに行われた地域のミクロな社会経済的背景を確認した。なお、この成果の一部については『中国研究月報』751号(2010年9月)で発表した。分担者の丸山は福建省福州の南部に位置する莆田県における社会変容を研究するため在地民間信仰に関わる研究書や史料を購入し、これを精読した。

引き続き、2010年11月にはマレーシアのペラ州シティアワンで福州系キリスト教徒移民に関わる調査を実施し、2011年3月にはシンガポールの国立シンガポール大学図書館、シンガポール国立図書館、国立公文書館で資料閲覧、そして福州系教会で聞き取り

調査を実施した。

さらに2011年3月5日には東マレーシアのサラワク州シブ市から蔡増聡氏(サラワク華族文化協会)および黄孟礼氏(マレーシア、シブ市、メソジスト教会サラワク華人年議会文字事業部)を筑波大学に招聘し、福建から東マレーシアへの移民に関わる華人史・基督教史の公開の研究会を実施した。報告タイトルは蔡増聡「サラワクの華人社会」及び黄孟礼「ボルネオのメソジスト教会」であった。

2011年度

山本は2011年8月に中国福建省福州市に位置し、プロテスタント系ミッションが合同で設立した福建協和大学を起源とする福建師範大学を訪問し、地域史やキリスト教史関係の資料を閲覧した。また福建省図書館でも地域史やキリスト教史関係の資料を収集した。さらに民国時期に教会関係者による働きかけを通じ集団でマレーシアへの移民が行われた華僑の故郷である莆田県に赴き、聞き取り調査を行った。これにより移民やキリスト教伝道が盛んに行われた地域のミクロな社会経済的背景を確認することができた。なお、これらの成果の一部については『中国研究月報』771号(2012年5月)で発表した。さらに2012年3月にアメリカニュージャージー州のDrew大学でメソジスト監督教会の史料を、イエール大学神学院図書館でプロテスタン在華ミッションに関わる史料を閲覧した。分担者の丸山は2012年3月にマレーシアサラワク州シブ市を訪問し、華人コミュニティにおけるキリスト教信仰と民間信仰との間の相互関係を考察した。

さらに2011年11月には福建省での研究協力者である福建師範大学の林国平教授を筑波大学に招へいし、福建の伝統社会に関わる研究会を開催した。

2012年度

山本は20世紀前半の中国福建省における社会・文化変容を多角的に研究する作業を推

進した。具体的には 福建沿海部の福州、興化地区と内陸部である龍岩、上杭地区を事例とし、キリスト教の浸透と社会変容の相関関係を検討した。 については、福建南西部(龍岩、上杭地区)で 20 世紀初頭に布教を行ったキリスト教宣教団体であるメノナイト・ブレザレンに関わる一次資料を、アメリカ合衆国カリフォルニア州に所在するフレズノパシフィック大学図書館において 2012 年 6 月に閲覧した。

沿海部の福州、興化地区からマレーシアへのキリスト教徒移民に関する事例を検討し長崎大学のシンポジウムで報告した(2013 年 2 月 22 - 24 日に長崎大学で開催された国際シンポジウム「持続可能な東アジア交流圏の構想に向けた人文・社会科学のクロスオーバー」において「20 世紀前半、福建省福州、興化地区からの南洋移民とその社会的背景」と題して報告)。現地研究者との協力関係を強固なものとするためマレーシア・サラワク州シブ市のメソジスト教会華人年議会の黄孟礼氏を再度招へいし 2012 年 12 月 2 日に筑波大学東京キャンパスにおいて研究会を開催した。黄氏の報告は「興化百年移民史」であった。

研究期間全体の研究成果は以下のとおりである。

(1) 福建福州地区からのマレーシアへのキリスト教徒移民と僑郷の社会変容

清末から民国初期、元来外来の宗教団体であったキリスト教会は、福音を伝道するだけでなく、教育や医療を中心とする様々な社会事業を通じて、徐々に福州や興化地域社会への影響力を拡大しつつあった。

清末段階における福州・興化地区からの東南アジアへ人々が移民したことの背景には、貧困などの経済的事情のみならず、日清戦争、变法の失敗、義和団事件などによる清朝の統治の動揺と社会不安の醸成、さらにキリスト

教徒と在地社会との摩擦などの複合的な要因が存在した。なお、キリスト教徒によるマレーシアのシブやシティアワンへの移民が成功した背景には外国人宣教師とともに、中国人信徒や中国人牧師の貢献が看過できない。これは教会の中国化(本色化)及びキリスト教を受容した新式の中国人エリートの成長として理解すべき事項であろう。また辛亥革命後の福建省では、北京政府系の外来権力による統治が長期に亘り、外省軍隊による労働力の徴発、あるいは匪賊による誘拐が民衆生活を脅かした。民国時期の治安の悪化は東南アジアへの移民を一層促進したが、こうした事態に対応してキリスト教会は人々に避難のルートを提供し、その生存を保護した。これとは別に、古田県の事例のように、中等、高等教育機関や海外との関係などの「資源」を有する教会は人々にとって新たな社会的上昇の手段としても重要な機能を果たしつつあった。

キリスト教の受容と東南アジアへの移民は、清末から民国にかけての過酷な生存環境に直面した福建民衆にとって有効な生存戦略であった。同時に海外との繋がりや深まりと人の移動とは、地域を外に向けて開くものであり、社会・文化に新たな要素を導入するという積極的な役割を果たしていたと評価できよう。

(2) 福州地区からマレーシア、ペラ州シティアワンへの移民について

この事例は、募集においてプロテスタントのメソジスト監督教会が主導的な役割を果たしていた。さらに移住先においても植民地政府と移民との間の仲介者となることに加え、教育や医療サービスを提供することを通じて教会は華人コミュニティーの中核的役割を果たしたのである。ただし、たとえ教会の斡旋があったとしても、郷里を離れ海外への開墾団に参加することには不安が付きま

とったはずである。それゆえ移民の招募には同族や同郷の絆も利用された。さらにゴム栽培の成功により開墾地が経済的に安定すると同族や同郷の絆を通じた後続移民が流入した。この段階になると地域の社会結合も教会の枠を超えて多元化し、各県県人を基礎とする同郷会やさらには華人全体を組織する中華公会が成立したのである。

また人々が南洋に移民した背景として聴き取りや口述記録において強調されたのは民国時期における福建社会の治安の悪化であった。福建は辛亥革命後北洋系の外来政権による統治が長期に亘り、外省軍隊による労働力の徴発あるいは匪賊による誘拐が民生を脅かすこととなった。さらに日中戦争時期に国民政府による徴兵が始まるとこれから逃れるため一部の人々が南洋に渡航した。太平洋戦争時期には交通遮断と政府による規制が相俟って南洋への渡航は不可能となったが、第二次大戦後の内戦時期となると、再開された徴兵を逃れるため南洋に移民した事例も確認できた。

(3)キリスト教宣教師文書から読み解く二〇世紀初頭の福建南西部客家社会と革命運動、

メノナイトミッションのヴィーンツは独立宣教師として福建南西部の客家地区で開拓的な宣教を実施した。後に同区は教団の正式な教区となり、男女の宣教師が派遣されてきた。ヴィーンツや他の宣教師が残した書籍や手紙、そして回顧録は、当該地区における社会や文化、そして政治状況を生き生きと描写するルポルタージュとなっている。特に社会の最底辺において虐待された童養媳の女性、奴隷として売り買いされた少女たちに関する叙述は読む者の心に響く内容をもっている。また当時の反帝・反キリスト教運動に関して、それをなぜ青年がリードし得たのか、地域の慣習を踏まえた分析が施されている。なお共産党の革命に対しては、宣教師の事業、

生命・財産が脅かされたこともあり、憎しみをもって叙述されていることには注意しなければならないだろう。ただし「現場」を経験した者のみが表現できるリアリティが内包されていることも否定できない。筆者は福建西南部での革命について共産党、国民党史料、そして現地での聴き取りに基づき研究を進めてきたが、同時代に外国人の目から、しかも民衆に密着し政治・社会変動を描写した宣教師の文書の有効性を改めて確認するものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

山本真「福州華僑とキリスト教 - マレーシア・ペラ州シティアワン及びシンガポール訪問記」『中国研究月報』査読なし、771号、2012年5月、17-33頁。

山本真「華僑とキリスト教からみる福建近現代史 福建僑郷、サラワク訪問記」『中国研究月報』査読なし、751号、2010年9月、31-41頁。

丸山宏「道壇と神画『アジア遊学』査読なし 133号、133-146頁、2010年。

丸山宏「湖南省藍山県ヤオ族伝統文化の諸相-馮榮軍氏からの聞き取り内容」『瑶族文化研究所通』査読なし、2号、19-25頁、2010年。

〔学会発表〕(計 2 件)

山本真「20世紀前半、福建省福州、興化地区からの南洋移民とその社会的背景」長崎大学国際シンポジウム「持続可能な東アジア交流圏の構想に向けた人文・社会科学のクロスオーバー」2013年2月22日。

山本真「福建省南西部農村の生活空間と

社会紐帯」日本現代中国学会第 60 回全国大会(2010 年 10 月 17 日). 中央大学多摩キャンパス。

筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：00229626

〔図書〕(計 6 件)

山本真「1950 年代初頭、福建省における農村変革と地域社会—国家権力の浸透過程と宗族の変容」奥村哲編『変革期の基層社会—総力戦と中国・日本』創土社、2013 年、141 - 180 頁。

山本真「福建省南西部農村における社会紐帯と地域権力」山本英史編『近代中国の地域象』山川出版社、2011 年、197 - 238 頁。

山本真「土地改革・大衆運動と村指導層の変遷 外来移民の役割に着目して」三谷孝編『中国内陸における農村変革と地域社会 山西省臨汾市近郊農村の変容』御茶の水書房、2011 年、77 - 104 頁。

丸山宏「中国湖南省藍山県ヤオ族の度戒儀礼文書に関する若干の考察-男人用平度陰陽拋を中心に-」『知のユーラシア』(堀池信夫編)" 明治書院(所収)、2011 年、400-427 頁。

丸山宏「道教伝度奏職儀式比較研究-以台湾南部的奏職文檢為中心-」『中国地方宗教儀式論集』譚偉倫(編)" 香港中文大学崇基学院宗教与中国社会研究中心(所収)、2011 年、637-657 頁。

石塚迅・中村元哉・山本真編著『憲政と近現代中国 国家、社会、個人』現代人文社、2010 年 10 月、全 186 頁。

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本 真 (YAMAMOTO, Shin)
筑波大学・人文社会系・准教授)
研究者番号：20316681

(2) 研究分担者

丸山 宏 (MARUYAMA, Hiroshi)